

### 1. 対象事務事業名

施策	ごみ処理対策の推進		
事務事業名	ごみ収集処理事業	担当	生活環境課環境保全班

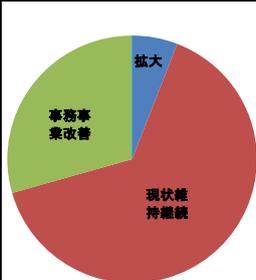
### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	ごみの減量化、資源化の更なる推進を図るとともに、基幹改良したごみ処理施設の適正な維持管理に努め、中長期的に安定したごみ処理を継続していく必要がある。また最終処分場の整備に向けた検討を始める。

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	今後も資源の有効活用を図るとともに、ごみの分別や減量化の定期的広報活動を行っていくこと。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果							
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性	
	拡大	1/19	市が行うべき	13/19	高い	15/19	効率的である	14/19	妥当である	14/19
	現状維持継続	11/19	民間等へ移行	3/19	低い	1/19	効率的ではない	1/19	妥当とはいえない	2/19
	事務事業改善	5/19	判定困難	1/19	判定困難	1/19	判定困難	2/19	判定困難	1/19
	縮小・終期設定	0/19								
	休止・廃止	0/19								

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般家庭用廃棄物の処理は将来も継続されていくことから、今後も市が実施し、現状維持としていただきたい。</li> <li>・市民への啓発や喚起をより一層促し、継続的・計画的に実施してほしい。</li> <li>・委託費用など事業費の削減を検討。</li> <li>・ごみの減量や今後のびん類の分別について、各家庭に具体的な例を示して周知徹底されたい。</li> <li>・ごみの減量や事業費の縮小などまだやるべきことはあると思う。</li> <li>・安定したごみ処理を継続していくためには、施設等の拡大が必要と思う。</li> <li>・本事業は生活に直結する事業であり、費用も要するので、慎重な評価(判断)が必要と思う。</li> <li>・ごみの減量化については、具体的な取組がはっきりしない。</li> <li>・受益者負担については、どの程度が適正か明確にする必要がある。</li> <li>・計量及び会計事務の民間委託についても検討してほしい。</li> <li>・コンポストの無料支給を広報でもっと周知してみてもどうか。</li> <li>・将来的にはノウハウを持つ民間業者に委託してどうか。</li> </ul>
---

### 1. 対象事務事業名

施策	公共交通の充実		
事務事業名	マイタウンバス運行事業	担当	総務課地域振興班

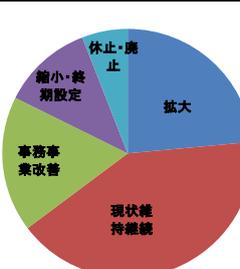
### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
拡大 (意図的に拡大)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイタウンバスの利用者は少しずつ増加している。</li> <li>・新庁舎を起点としたバス路線の検討が必要と考えている。</li> <li>・交通空白域解消のための施策として、デマンド型乗合タクシーの実証運行を平成26年度に実証すべく準備を進めている。</li> </ul>

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	年間利用者数19,061名(1日あたり52.2名)は効率的であるとは思えないものの、移動に難を抱える高齢者等にとっては貴重な移動手段であり、今後とも運行路線・時間を十分に検討して、利用率の向上を図るべきと思う。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果							
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性	
	拡大	4/19	市が行うべき	10/19	高い	10/19	効率的である	6/19	妥当である	10/19
	現状維持継続	7/19	民間等へ移行	5/19	低い	4/19	効率的ではない	8/19	妥当とはいえない	4/19
	事務事業改善	3/19	判定困難	2/19	判定困難	3/19	判定困難	3/19	判定困難	3/19
	縮小・終期設定	2/19								
	休止・廃止	1/19								

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の実態把握、分析、市民の要望等を考慮し、デマンド方式等の効果的運行計画を推進してほしい。</li> <li>・バス停の利用時刻が折り合わず、利用しづらい面も感じる。もっと工夫する余地があるのではないかな。</li> <li>・追分地区等は対象外であるが、民間バスが廃止されたことに伴い、交通弱者救済の観点からも大切な施策と考える。</li> <li>・デマンド型乗合タクシーの運行に関しては、停留所を決めるなど、しっかりした準備が必要だと思う。</li> <li>・高齢化に伴い、買い物難民、通院・通学に係る交通弱者の足の確保は絶対に必要なものである。</li> <li>・利便性の向上に努め、常に見直しながら運行する必要があるのではないかな。</li> <li>・利用実績から路線や運行本数の見直しが必要ではないかと思う。</li> <li>・民間移行となると、採算性重視となり、交通弱者切り捨てにつながる恐れがある。現状の委託方式が望ましい。冬期間の学生の帰りの移動手段確保が必要。</li> <li>・新庁舎を起点とするバス路線は、現在バスが走っていない地区を考慮してほしい。</li> <li>・今後とも、交通弱者以外の視点から見たときに、納得できる事業であってほしい。</li> <li>・全面廃止が望ましい。</li> </ul>
--

### 1. 対象事務事業名

施策	高齢者福祉の充実		
事務事業名	敬老式事業	担当	高齢福祉課高齢福祉班

### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	少子高齢化が急速に進む中で、市の元気な高齢者といえる8割を超える人々の高齢者施策が重要と捉えている。年1回、市の進展に寄与した高齢者の長寿を祝福するため行う敬老式は、介護保険制度・後期高齢者医療などの費用負担の公平性を考慮すると、現状のまま継続すべき事業と考える。

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
事務事業改善	高齢者の長寿を祝うことは、人生の励みや社会貢献につながるものと考えますが、祝い金等の支給対象者が増加して事業費が伸びていることや、将来的には徐々に減少していくものであることから、そのあり方について検討が必要だと考える。長年住み慣れた地域で祝ってもらうのも一つの方法ではないか。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果								
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性		
	拡大	0/19	市が行うべき	14/19	高い	12/19	効率的である	10/19	妥当である	10/19	
	現状維持継続	0/19	民間等へ移行	2/19	低い	5/19	効率的ではない	5/19	妥当とはいえない	6/19	
	事務事業改善	6/19	判定困難	1/19	判定困難	0/19	判定困難	2/19	判定困難	1/19	
	縮小・終期設定	3/19	※方向性の集計結果は第6回行政改革推進委員会にて再集計。当日12名出席で未回答3名。								
	休止・廃止	0/19									

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの労苦を称える意味でも継続すべきと思う。</li> <li>・80歳の記念品は杖となっているが、他の選択肢もあった方が良くと思う。</li> <li>・この事業については、予算を縮小して、若年者への配分をもっと増やすべきではないか。未来を担うのは若者である。</li> <li>・祝い金は存続するとしても、式自体は参加率が低下傾向であるため、再検討の必要があると思う。</li> <li>・祝い金等の支給対象者が増加して事業費が伸びているということであるが、今後の増加人数をある程度予測して、その方向性を考える時期ではないか。</li> <li>・他市町村では各種団体で実施しているところもある。将来的には民間等へ移行してもいいと思う。式自体もややマンネリ化している印象を受けるため、もう少し工夫してほしい。</li> <li>・将来の人口減少を考慮すると、縮小すべきと考える。</li> </ul>
--

### 1. 対象事務事業名

施策	水産業の振興		
事務事業名	種苗等放流事業補助金	担当	産業課農村整備班

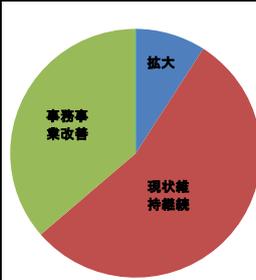
### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	種苗放流については、平成24年4月の爆弾低気圧により海底地形が大幅に変化したため、漁獲量が大幅に減少しており、今後の漁獲量の回復が懸念されている。今後の漁獲量の推移を見ながら他の方策の検討も必要とされる。 わかさぎ卵の入手が困難になってきており、今後、他種の放流等も視野にいれなければならない。特産品の材料確保のために安定した漁獲量を確保し、生産性の高い漁業を進めるための「つくり育てる漁業」をさらに推進しなければならない。

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	費用対効果の判断は困難であると思うが、水産資源の維持・向上のためには必要であると考え。受益者においては、これまで以上の自助努力をしていただきたい。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果								
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性		
	拡大	1/19	市が行うべき	9/19	高い	9/19	効率的である	7/19	妥当である	8/19	
	現状維持継続	6/19	民間等へ移行	6/19	低い	5/19	効率的ではない	5/19	妥当とはいえない	3/19	
	事務事業改善	4/19	判定困難	2/19	判定困難	2/19	判定困難	4/19	判定困難	5/19	
	縮小・終期設定	0/19	※方向性の集計結果は第6回行政改革推進委員会にて再集計。当日12名出席で未回答1名。								
	休止・廃止	0/19									

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し前向きに内部評価していただきたい。事業自体は大切なことであると思う。</li> <li>つくり育てる漁業を漁業者と一体になり、推進していくべきと思う。</li> <li>漁業組合や内水面組合へ移譲してもいいのではないかと。(市の支援は必要)</li> <li>稚魚の放流時、命の大切さを学び、水質浄化や環境問題に興味を持ってもらうために、児童に参加してもらい、水辺に親しんでもらってはどうか。</li> <li>現在放流されている魚種のほかに育成できる魚種はないか検討の余地があるのではないかと。</li> <li>水産資源の維持、拡大を図るといふ意図とは実績値(ガザミ)があまりにも隔離している。平成25年度も大幅減になる見通しで、これまでの放流が全て無駄になってしまう恐れがある。</li> <li>努力はみられるがその継続性についてはあまり理解できない。</li> <li>八郎湖の魚をもって地産地消を図るためにも販売場所を確保し、商品化するためのルートの構築を望む。</li> </ul>
---

## 1. 対象事務事業名

施策	学校教育の充実		
事務事業名	学校給食の実施	担当	総務学事課学校管理班

## 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	学校給食の安全安心と食育の推進は、児童生徒の健全育成の根幹である上、昨今の食物アレルギー対応、流行性感染発生時の対応等、人命に関わる重要な事業である。学校給食施設(調理場)の共同化(給食センター化)については、メリットとしては、施設建設の際の国庫補助金及び合併特例債等の財源が見込まれることや集約化による人件費の削減等が考えられる。しかし、デメリットとして災害発生時に全ての給食機能がストップしてしまう可能性があること、避難所となる学校に調理場がなくなってしまうこと、従来の調理場での雇用がなくなってしまうこと等が考えられるため、災害担当部局とも連携しながら慎重に検討していく必要がある。学校によっては比較的新しい調理場もあるため、検討にあたっては計画の策定等も含め、3~5年程度の期間が必要になると考えている。

## 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	学校給食の実施については現状維持継続。ただし、市の財政面や将来的な少子化等を考慮した場合、給食センター化の計画は必要だと考える。将来的には自校調理方式を維持していくことは、困難になるため、自校調理方式の災害時のメリット以上にその必要性は高い。

## 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果							
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性	
	拡大	1/19	市が行うべき	10/19	高い	14/19	効率的である	11/19	妥当である	13/19
	現状維持継続	9/19	民間等へ移行	5/19	低い	2/19	効率的ではない	4/19	妥当とはいえない	2/19
	事務事業改善	5/19	判定困難	2/19	判定困難	1/19	判定困難	2/19	判定困難	2/19
	縮小・終期設定	1/19								
	休止・廃止	0/19								

## 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒への食の知識、健康維持に大変重要な事業である。管理体制をより充実し、安全そして地産地消に配慮した食の提供を継続してほしい。</li> <li>・「食べる」ということは生命の根源である。食べ物は身の回りにあるものを調理して食べるのが望ましいと考えることから、給食においても加工食品等ではなく、なるべく自然のものを提供していただきたい。</li> <li>・学校給食の安全・安心と食育に関しては、児童・生徒の健康を考えると最も重要な事業と思う。</li> <li>・教育の一環として食育をもっと推進すべき。</li> <li>・従来の官設官営から官設民営化さらにPFI、もう一歩踏み込んで完全民営化した場合、30%前後のコストダウンが見込まれると思う。懸念である衛生業務管理は「ISO9000」品質管理認証業者に委託することで解決する。</li> <li>・成果指標については、残食量だけではなく、安全性・食育などを含めたものを検討すべき。</li> <li>・給食センター等に移行した場合、一括購入により経費の節減や人件費の抑制が期待できると思われる。積極的な地場産の魚・野菜等の活用も促す。</li> <li>・災害時の備えという観点からも、現状維持が望ましいと思う。</li> <li>・将来的には少子化が進み、全校で自校調理形式は無理がある。防災のことは分けて考えるべき。</li> <li>・センター方式とするべき。天災時の食糧確保はどちらにしても困難なものになるのでは。</li> </ul>
--

### 1. 対象事務事業名

施策	地域自治の振興		
事務事業名	自治会活動振興事業	担当	総務課地域振興班

### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
事務事業改善	昭和地区の草生土町内会と真形町内会が統合し、平成26年度から新町内会としてスタートするべく準備を進めている。今後も各自治会の意向を尊重しつつ、地域にとってよりよい形を模索していくとともに、全体組織のコンパクト化についても検討していきたいと考えている。

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	少子高齢化及び人口減少に鑑み、今後の自治会のあり方を検証する必要がある。住民が行う自治と行政が行う社会教育等について、これからは地域住民が住民の手で作り上げ、住民によって運営される自治組織にするべきと考える。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果	評価の視点の集計結果										
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性		
	拡大	0/19	市が行うべき	16/19	高い	15/19	効率的である	10/19	妥当である	12/19	
	現状維持継続	8/19	民間等へ移行	0/19	低い	0/19	効率的ではない	2/19	妥当とはいえない	3/19	
	事務事業改善	3/19	判定困難	1/19	判定困難	1/19	判定困難	4/19	判定困難	2/19	
	縮小・終期設定	0/19	※方向性の集計結果は第6回行政改革推進委員会にて再集計。当日12名出席で未回答1名。								
	休止・廃止	0/19									

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少、高齢化が加速する現状から、地域コミュニティの変革が求められていると思う。行政主導による「地域コミュニティ活性化委員会」等の開催を希望する。</li> <li>・行政と自治会はまちづくりにおける大切なパートナーである。今後も大いに協力していくべき。</li> <li>・自治会はまちづくり施策の面でも育成は必要であるが、事務事業改善を望む。</li> <li>・旧3町の組織を統一できないか検討すべきと思う。</li> <li>・本市には、戸数の大きい自治会と小さい自治会が混在しており、適正戸数とした自治会組織が必要と思慮する。一つの自治会を大きくしてコンパクト化(自治会長の少数化)するのは、自治会を預かる役員の負担が大きくなると思われる。</li> <li>・合併当初の活動方式で効率性が低い。合併10年程度を機に組織を検討する時期と思われる。</li> <li>・生活していく上で自治会・町内会が基本である。活発に活動していない会については、いろいろと指導していただきたい。</li> <li>・自治会活動の活性化という意味では、現状維持以上が望ましい。</li> </ul>
--

### 1. 対象事務事業名

施策	健全な自治体経営の推進		
事務事業名	行政改革の推進	担当	企画政策課企画政策班

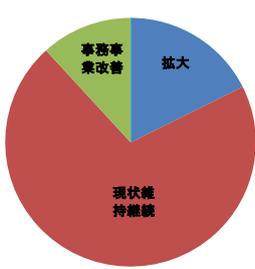
### 2. 内部評価結果(担当部署の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	行政評価について、総合発展計画をもとに各種事務事業について評価することから、総合発展計画進捗よく管理との統合についても検討したが、事務事業を個別に評価する行政評価と総合発展計画全体の進捗よく管理とは趣旨が異なること、対象となる年度が異なる(行政評価は前年度、総合発展計画は当年度)ことなどから、統合は行わないこととしている。

### 3. 外部評価結果(行政改革推進委員会の評価)

方向性	主な評価コメント等
現状維持継続	行政改革の推進実績や進捗よく状況を外部委員より意見を聞き、行政改革に反映することは非常に重要であると考えている。

### 4. 各委員の評価結果の集計

方向性の集計結果			評価の視点の集計結果							
			①市の関与度		②施策への貢献度		③効率性		④内部評価の妥当性	
	拡大	3/19	市が行うべき	13/19	高い	15/19	効率的である	15/19	妥当である	15/19
	現状維持継続	12/19	民間等へ移行	3/19	低い	1/19	効率的ではない	1/19	妥当とはいえない	1/19
	事務事業改善	2/19	判定困難	1/19	判定困難	1/19	判定困難	1/19	判定困難	1/19
	縮小・終期設定	0/19								
	休止・廃止	0/19								

### 5. その他評価コメント等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・行革なくして自治体の発展はない。職員の日々の努力と評価、そして市民参画による一体的取組を推進してほしい。</li> <li>・小さな拠点の整備を提案する。行政サービスのアンバランスの是正、小学校区又は中学校区単位でのコミュニティづくりなど。</li> <li>・市民の意見を聞き、行政改革を推進することは重要であり、継続すべきと思う。</li> <li>・将来的には第三者の判断に委ねるべきと思う。</li> <li>・第三者からの判断を仰ぐことから、民間等への移行が望ましいと考える。</li> <li>・時代を先取りし、前もって対応できる自治体づくりに向けてポジティブな行政改革が必要である。</li> <li>・更なる推進を期待したい。</li> </ul>
--